



スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成

Sport Academy

——— スポーツアカデミー2017 ———

全国調査からみる子どもの 運動・スポーツの現状と課題

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所
副主任研究員 武長理栄

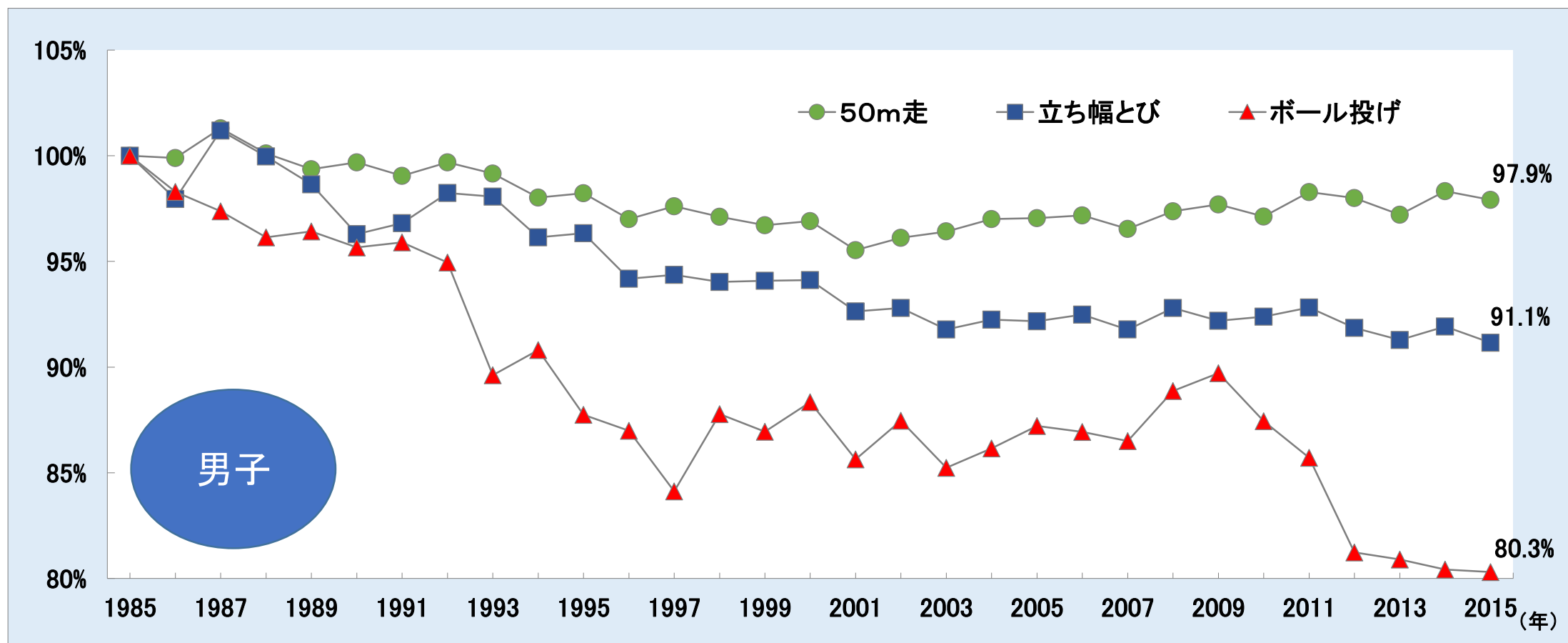
2018年2月9日（金）19：00～



子どもの体力・運動能力の推移(小学4年生:男子)

○1985年をピークに低下

○97年以降はボール投げ以外の種目は横ばいまたは向上傾向

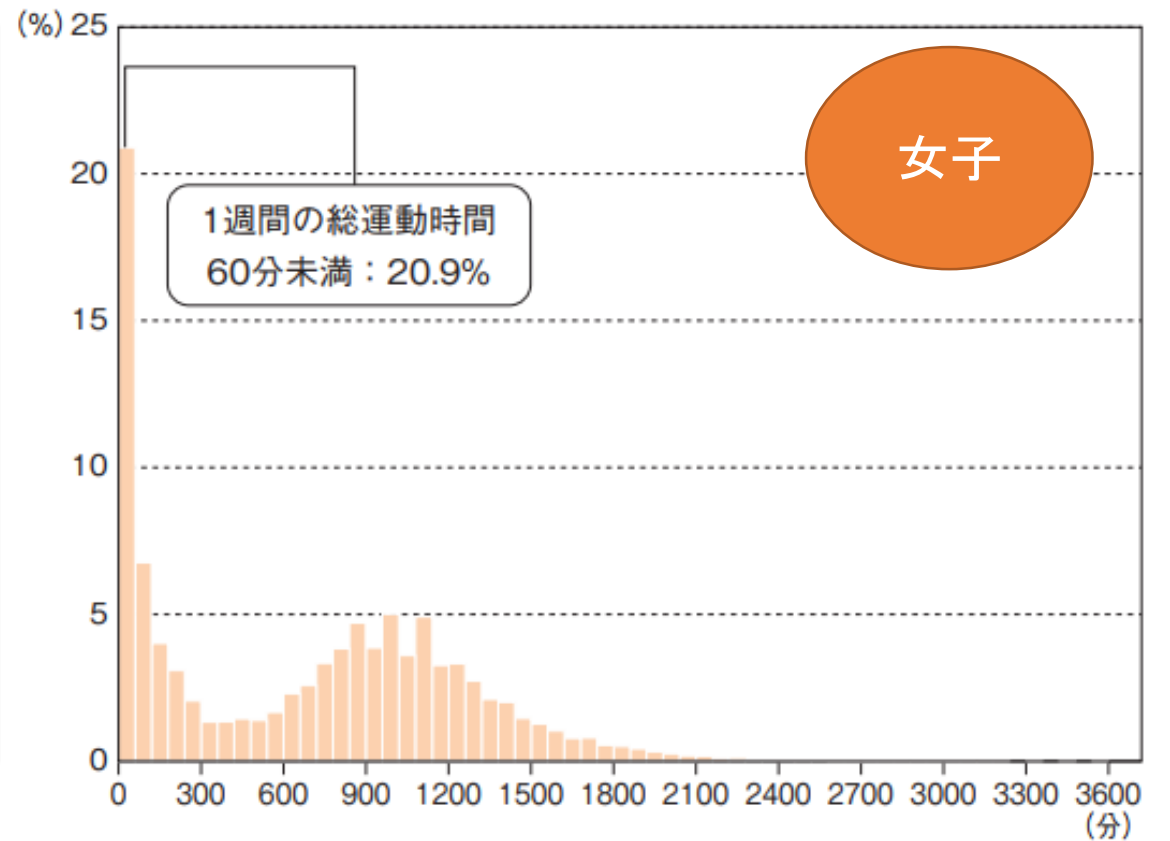
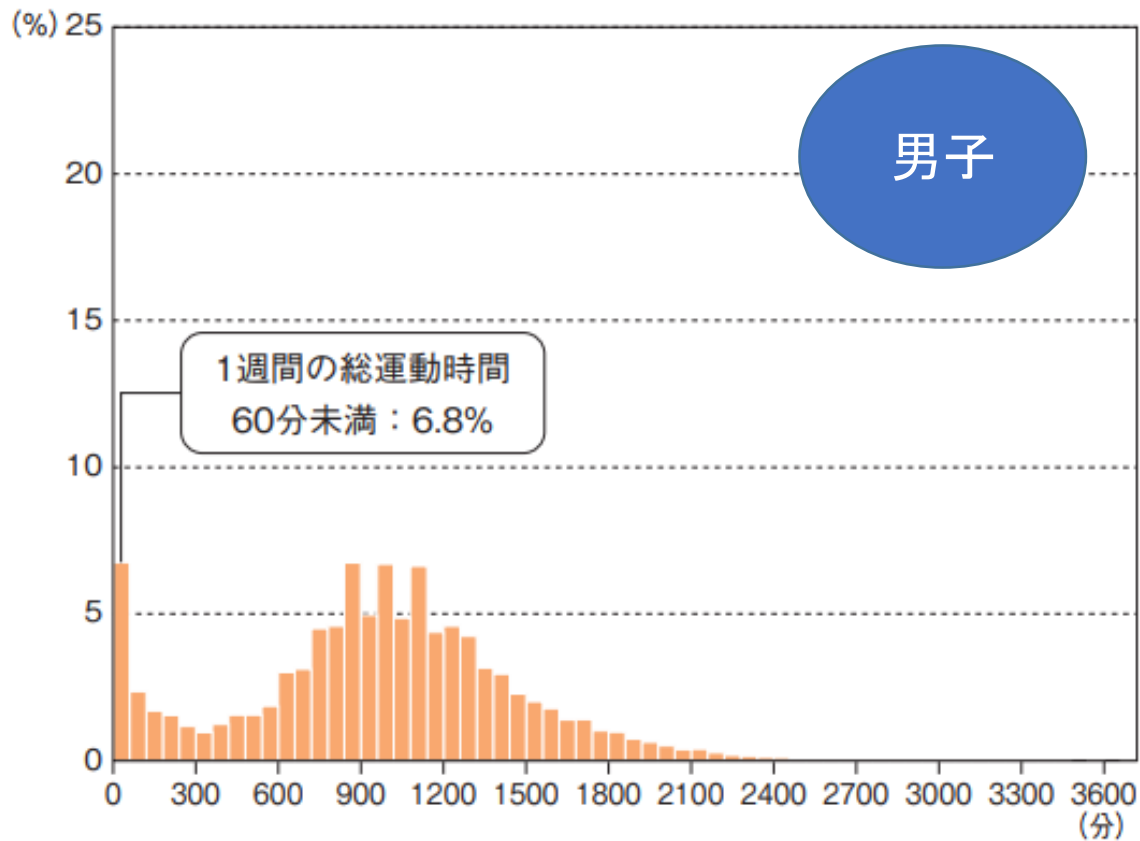


注 1985年(昭和60年)の体力成績を100%とする相対値

文部科学省・スポーツ庁「体力・運動能力調査」(1985~2015)より作成

1週間の総運動時間(中学2年生)

- 女子の1週間の総運動時間60分未満は2割
- 1週間の総運動時間60分未満の8割が運動時間0分



注 学校の体育の授業を除く

スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(2016)より

子どもの発達と望ましい運動・スポーツの機会

小学校 高学年



11歳～

言われたことを理解して
行うことができる段階

いろいろなスポーツを行う

小学校 低・中学年 10歳～



6歳～

いろいろな運動がうまく
できるようになる段階

動きを組みあわせる,
リズムにあわせて動くなど

幼児期

5歳～



3歳～

いろいろな運動が
できるようになる段階

走る, とぶ, 投げるなど
基本的な運動

乳幼児期

2歳～



0歳

生まれつきできる
運動の段階

寝返りをうつなどの反射運動,
座ったり, 歩いたりなど基礎的な運動

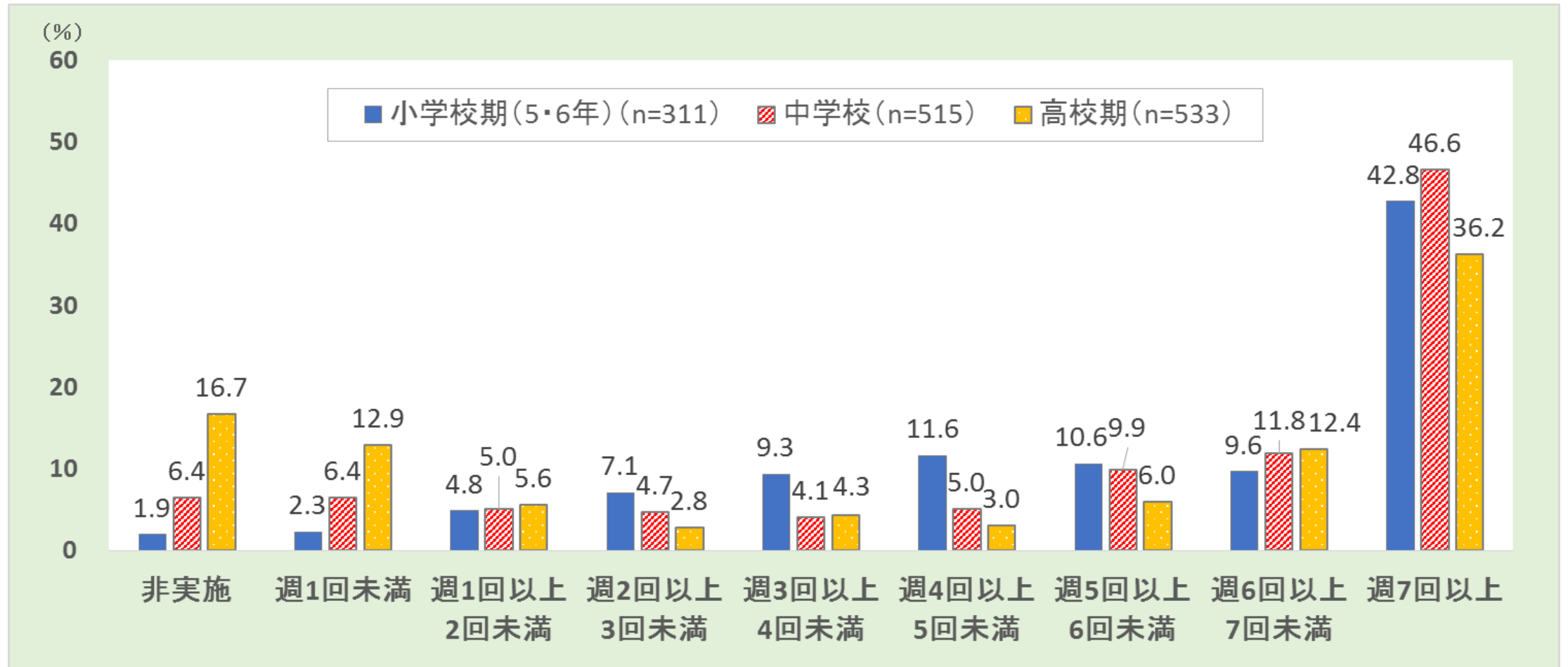
笹川スポーツ財団 子ども／青少年のスポーツライフ・データ2015



調査名	4～9歳のスポーツライフに関する調査	10代のスポーツライフに関する調査
目的	放課後や休日における子どもの運動・スポーツ実施状況を把握する	
母集団	全国の市区町村に在住する4～9歳の男女	全国の市区町村に在住する10～19歳の男女
標本数	1,800人	3,000人
地点数	市部181地点、郡部19地点 合計200地点	
抽出方法	層化二段無作為抽出法	
調査方法	訪問留置法による質問紙調査(個別聴取法併用)	訪問留置法による質問紙調査
有効回収数(率)	1,123(62.4%)	1,712(57.1%)
調査内容	運動・スポーツ実施種目、実施頻度・時間・強度、習いごと、スポーツ観戦、保護者の運動・スポーツ実施状況、生活習慣など	運動・スポーツ実施種目、実施頻度・時間・強度、スポーツクラブ・運動部、スポーツ観戦、スポーツボランティア、習いごと生活習慣、保護者の運動・スポーツ実施状況など
調査時期	2015年6月～7月	
運動・スポーツの範囲	学校の休み時間、部活動の活動は含めるが、幼稚園・保育園・学校の授業や行事の運動会・マラソン大会などは含めない	

運動・スポーツ実施頻度(小学校～高校:学校期別)

- 「する人」と「しない人」の二極化
- 小⇒中⇒高で「しない人」が増加



注) 学校の体育の授業を除く

笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」(2015)より

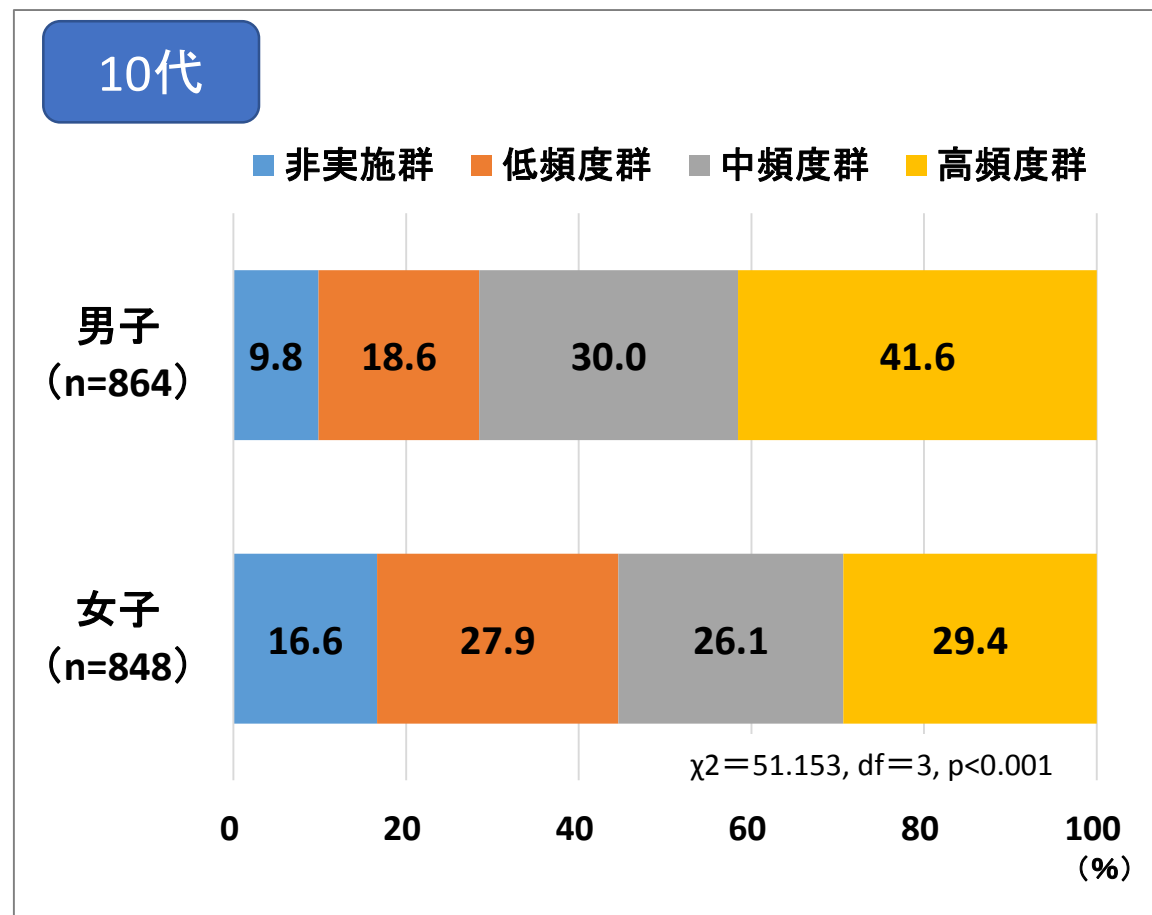
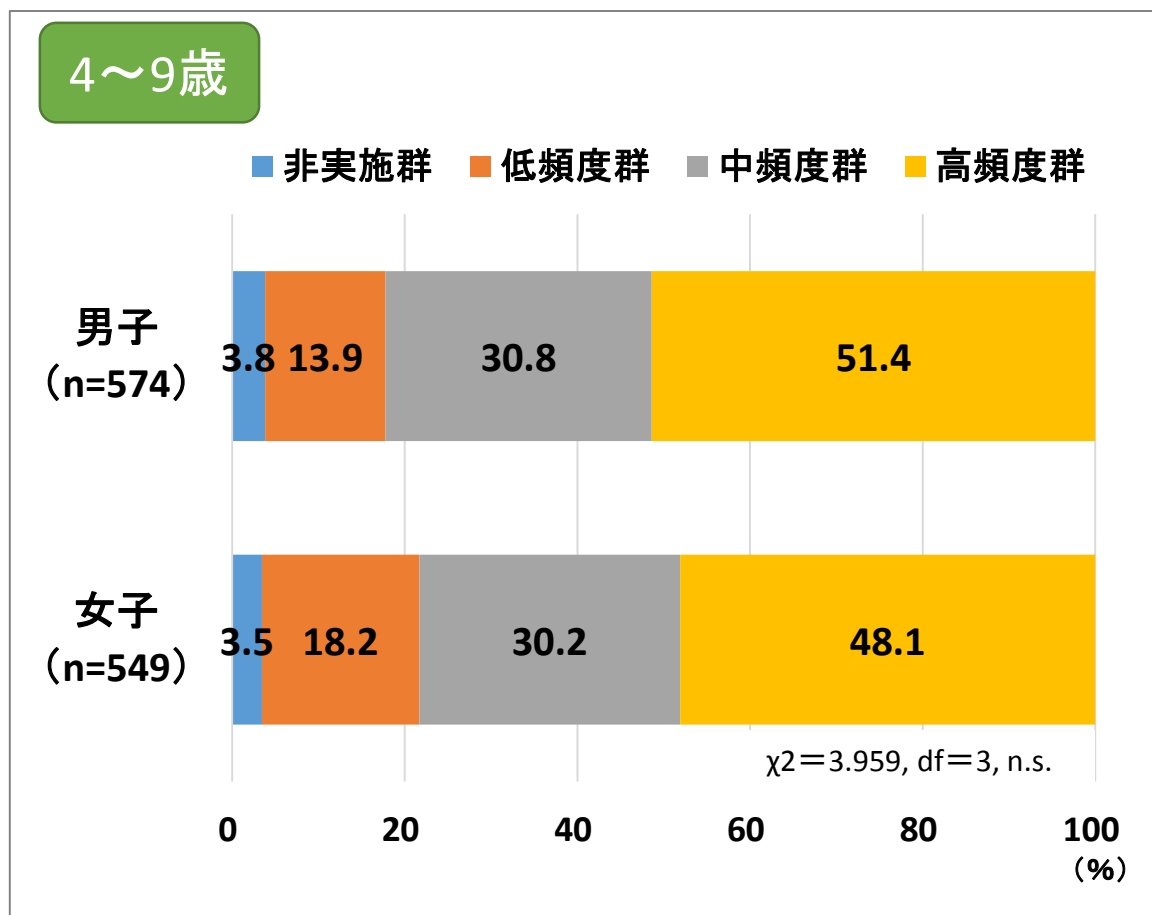
運動・スポーツ実施状況の分析方法

4～19歳の運動・スポーツ実施頻度群

実施頻度群	基準
非実施群	非実施(0回/年)
低頻度群	年1回以上週3回未満(1～155回/年)
中頻度群	週3回以上週7回未満(156～363回/年)
高頻度群	週7回以上(364回以上/年)

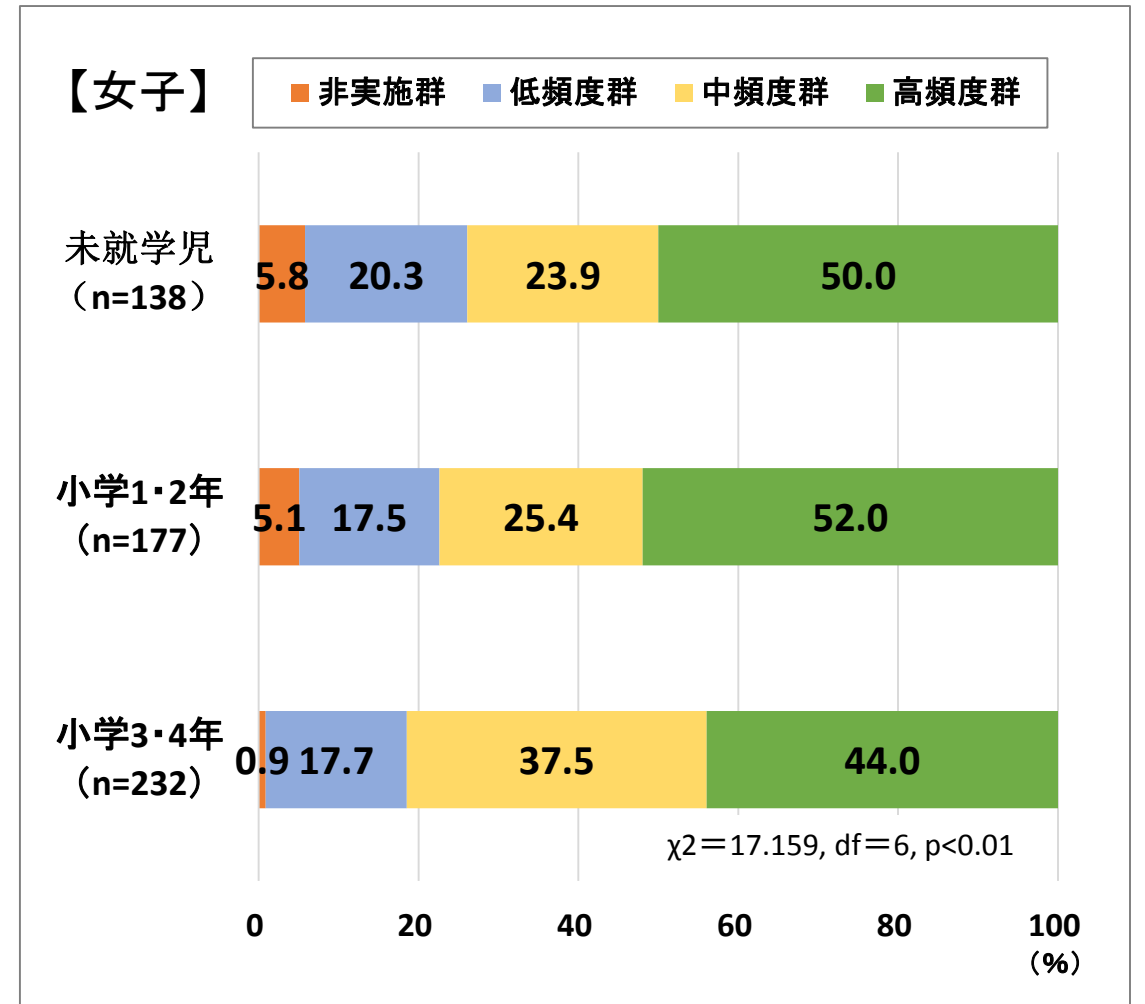
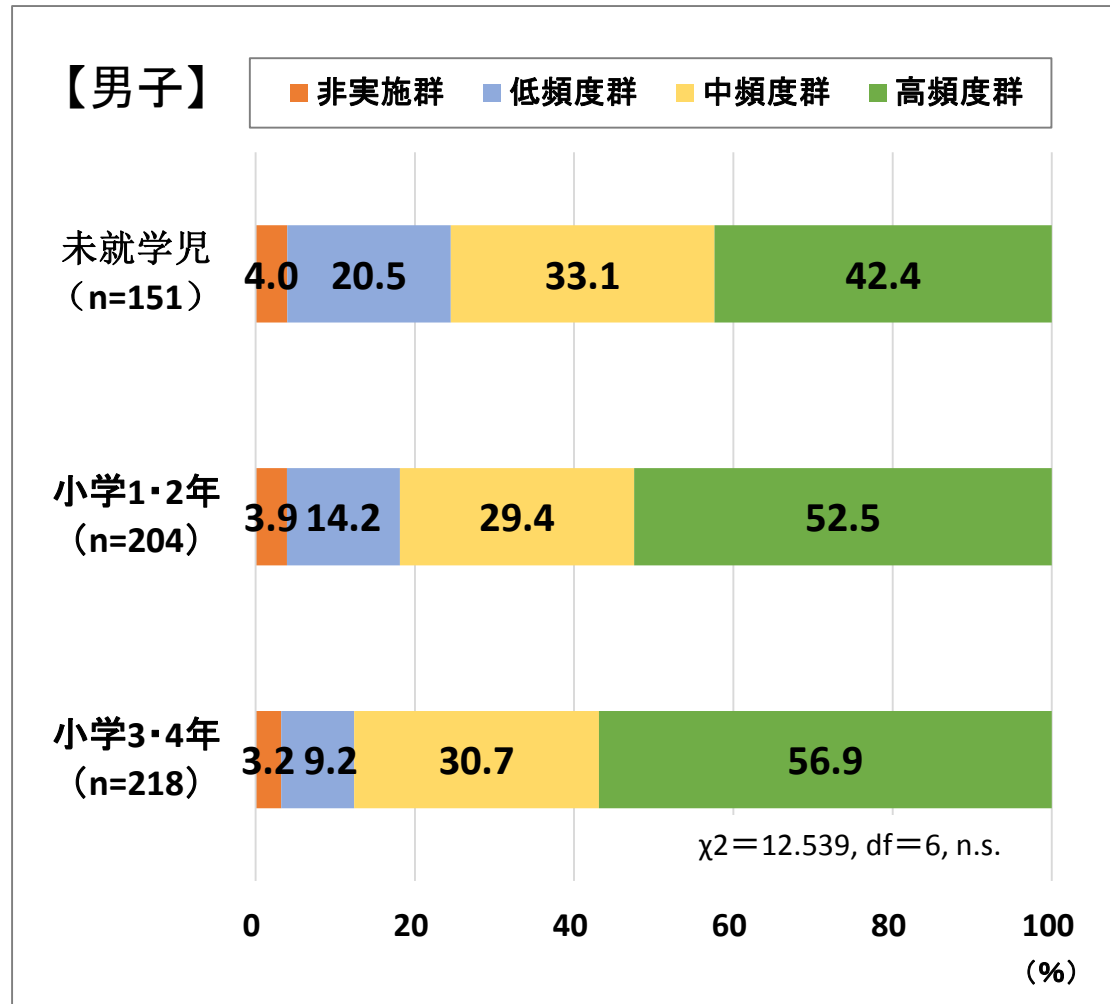
運動・スポーツ実施頻度群(4~9歳/10代:性別)

■9歳以下では実施状況に男女差はないが、10代になると男女差がみられる



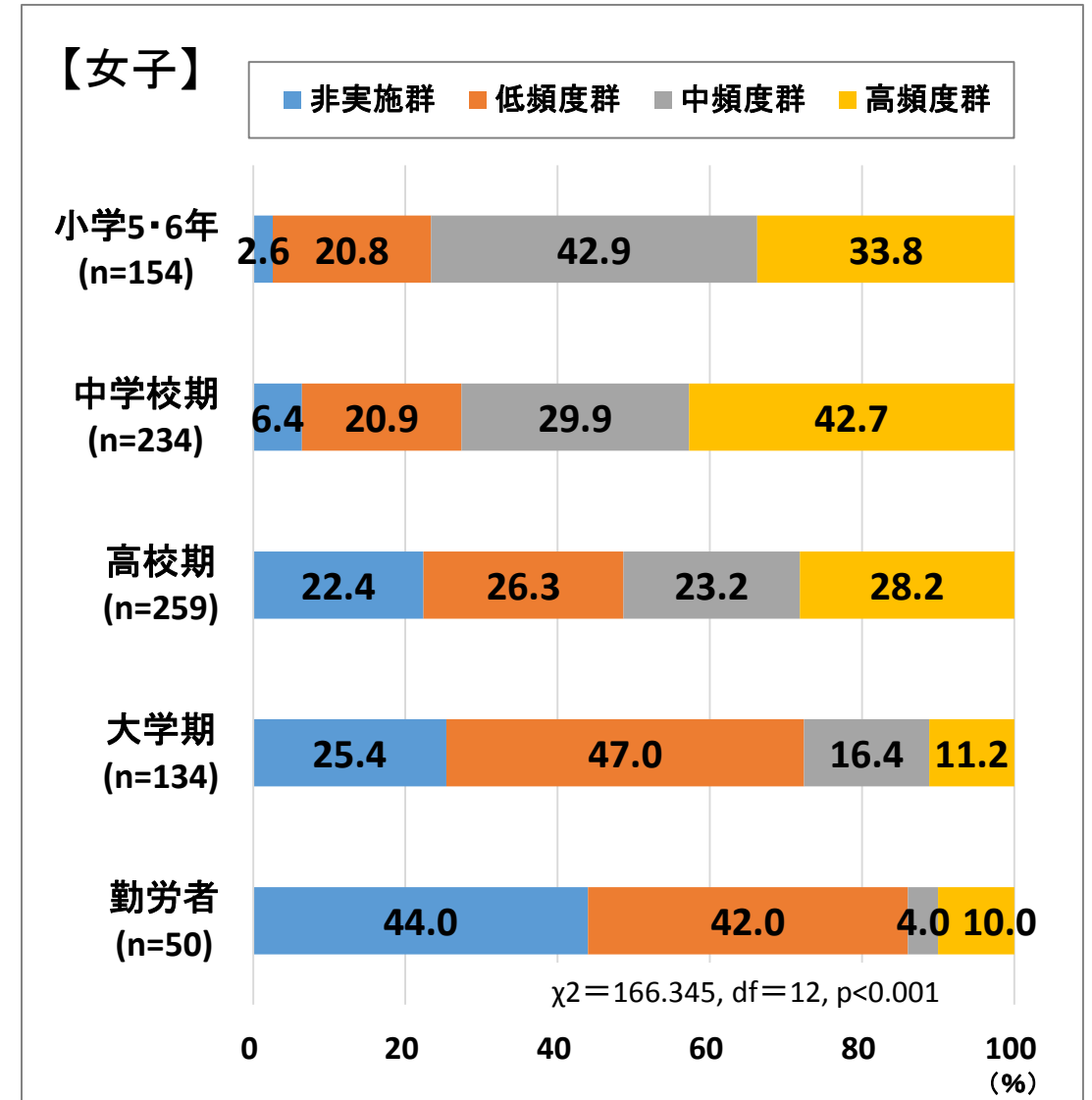
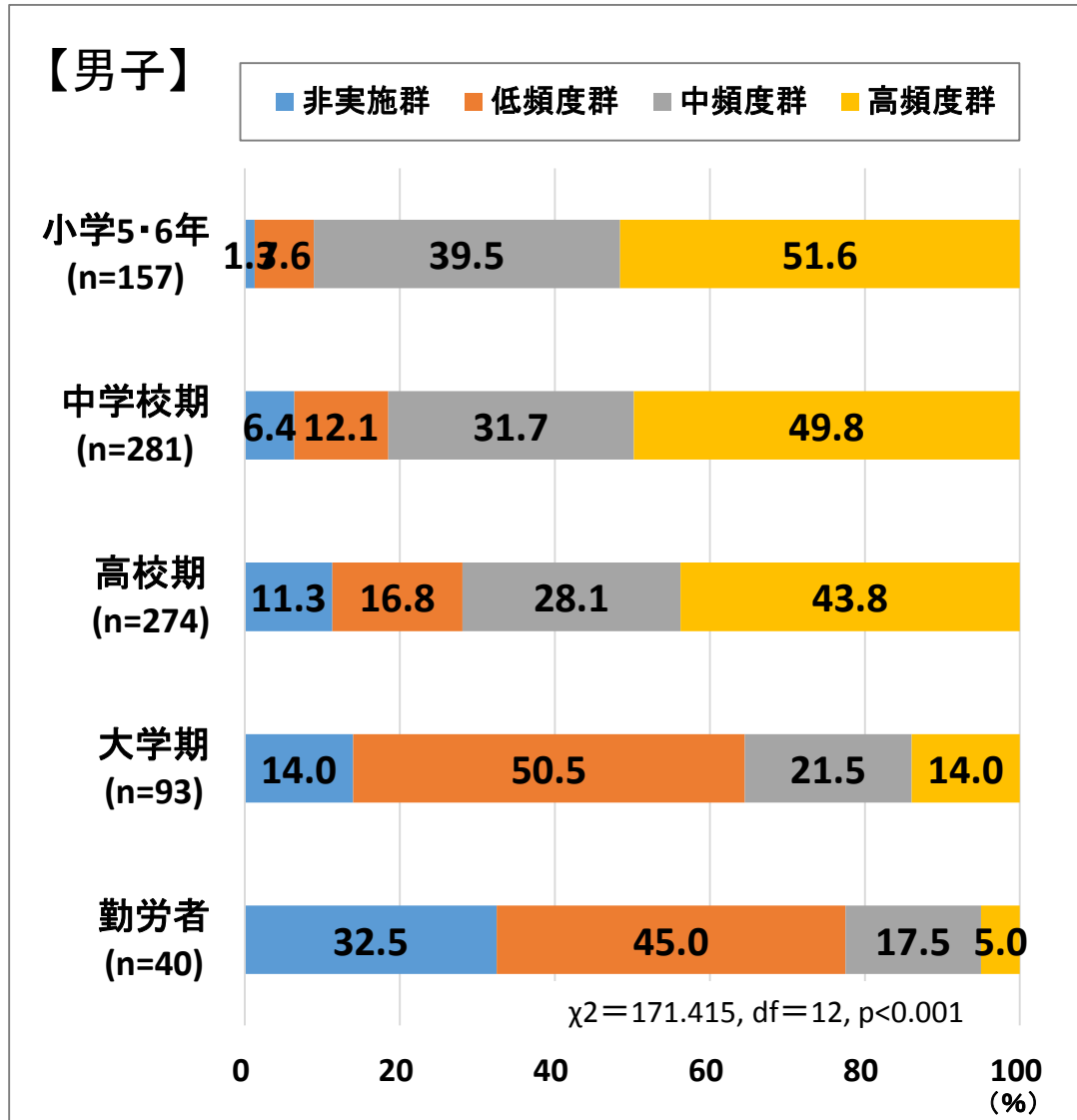
未就学児～小学3・4年の運動・スポーツ実施頻度群（性別）

■ 男子では学年進行にともなって高頻度群が増加するが、女子では減少する



小学5・6年～大学生・勤労者の運動・スポーツ実施頻度群（性別）

■ 高校期から非実施群の男女差が大きくなる



注) 勤労者: 15～19歳

笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」(2015)より

過去1年間によく行った運動・スポーツ(男子)

(%)

順位	未就学児 (n=145)		順位	小学1年生 (n=99)		順位	小学3年生 (n=108)		順位	小学5年生 (n=77)	
1	自転車あそび	46.2	1	おにごっこ	54.5	1	おにごっこ/サッカー	51.9	1	サッカー	61.0
2	おにごっこ	44.8	2	サッカー	46.5	3	ドッジボール	49.1	2	ドッジボール	58.4
3	かくれんぼ/サッカー	35.9	3	水泳(スイミング)	41.4	4	水泳(スイミング)	43.5	3	おにごっこ	41.6
5	ぶらんこ	34.5	4	自転車あそび	40.4	5	自転車あそび	29.6	4	水泳(スイミング)	29.9
			5	ドッジボール	25.3				5	バスケットボール/野球	20.8

順位	中学1年生 (n=102)		順位	中学3年生 (n=87)		順位	高校2年生 (n=71)		順位	大学生 (n=80)	
1	サッカー	43.1	1	サッカー	41.4	1	サッカー	36.6	1	サッカー	32.5
2	バスケットボール	24.5	2	野球	29.9	2	バスケットボール	31.0	2	筋力トレーニング	25.0
3	野球	22.5	3	バスケットボール	25.3	3	筋力トレーニング	28.2		ジョギング・ランニング	
4	ドッジボール	21.6	4	筋力トレーニング/卓球	20.7	4	ジョギング・ランニング	26.8	4	ボウリング	23.8
5	水泳(スイミング)	19.6				5	野球	18.3	5	フットサル	21.3

過去1年間によく行った運動・スポーツ(女子)

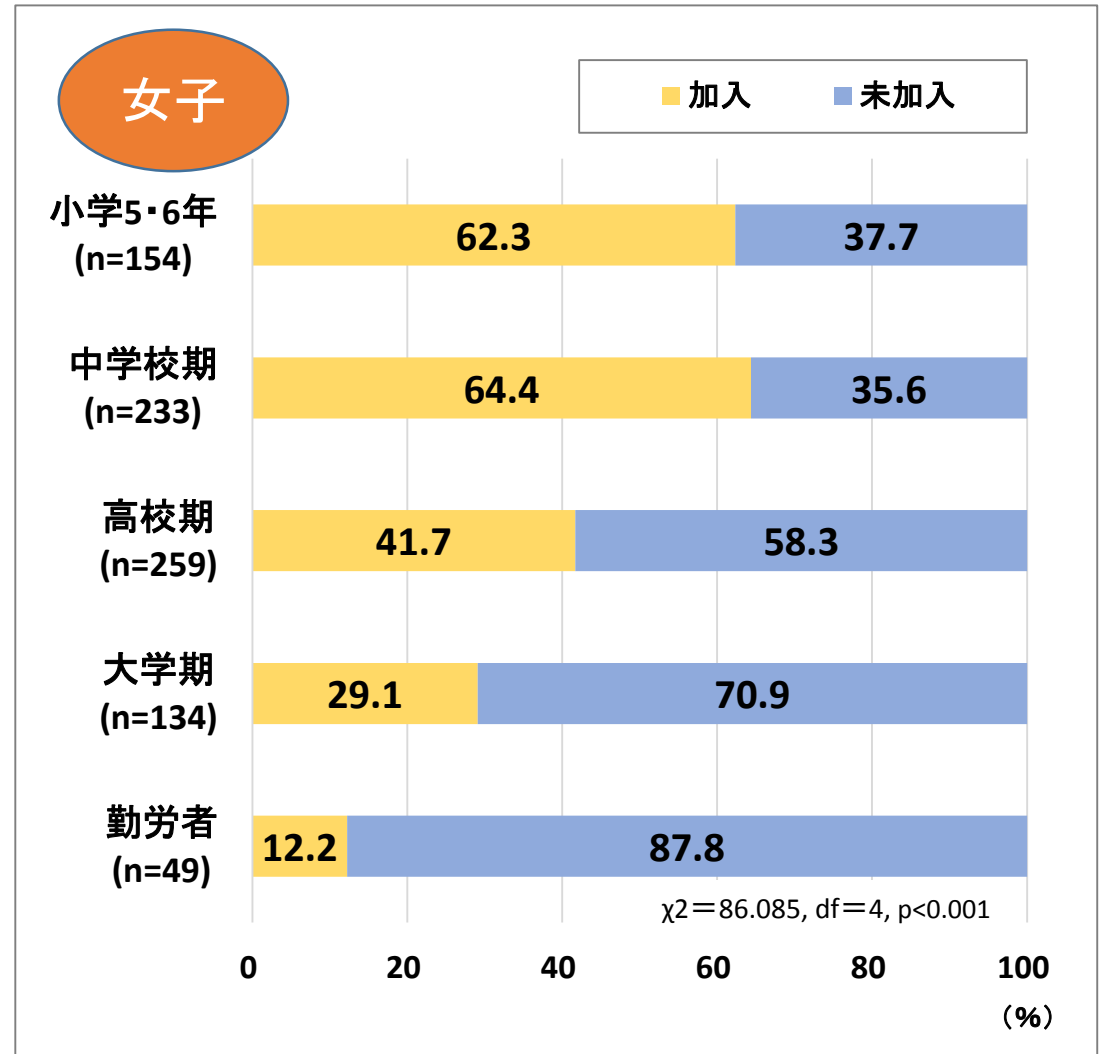
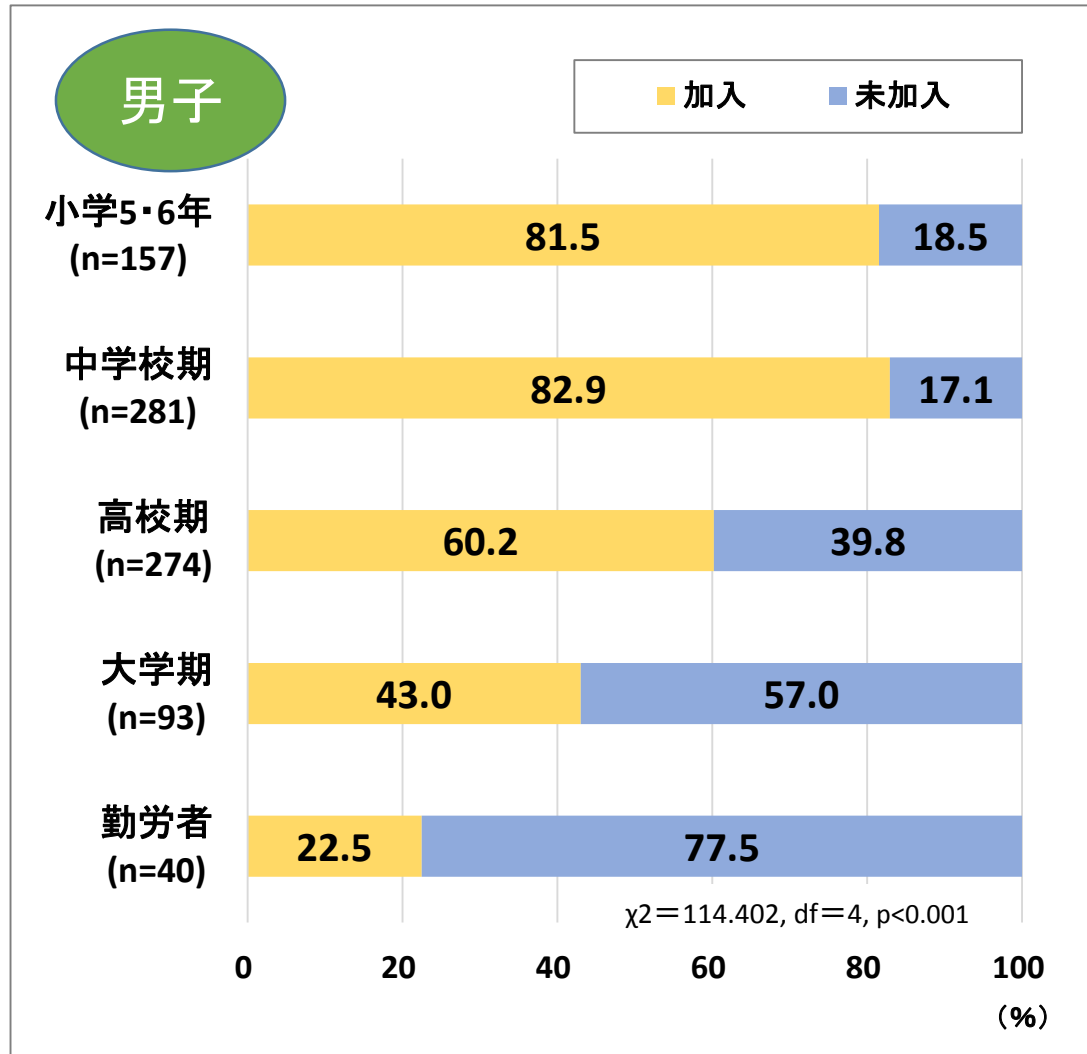
(%)

順位	未就学児 (n=130)		順位	小学1年生 (n=78)		順位	小学3年生 (n=108)		順位	小学5年生 (n=68)	
1	ぶらんこ	56.2	1	ぶらんこ	48.7	1	おにごっこ	50.9	1	おにごっこ	54.4
2	おにごっこ	51.5	2	水泳(スイミング)	43.6	2	自転車あそび	43.5	2	水泳(スイミング)	38.2
3	自転車あそび	46.2	3	おにごっこ	41.0	3	ドッジボール	36.1	3	なわとび (長なわとびを含む)	36.8
4	かけっこ/鉄棒	30.8		4		なわとび (長なわとびを含む)	35.2	4	ドッジボール	35.3	
			5	鉄棒	37.2	5	水泳(スイミング)/ ぶらんこ	32.4	5	ぶらんこ	29.4

順位	中学1年生 (n=82)		順位	中学3年生 (n=71)		順位	高校2年生 (n=51)		順位	大学生 (n=100)	
1	おにごっこ	34.1	1	バレーボール	31.0	1	バドミントン	31.4	1	バドミントン	28.0
2	バスケットボール	29.3	2	ジョギング・ランニング	23.9	2	ジョギング・ランニング	21.6	2	バレーボール	25.0
3	バドミントン	28.0	3	バスケットボール	21.1		3		ウォーキング	23.0	
4	バレーボール	26.8	4	バドミントン	18.3	4	ウォーキング	17.6	4		バスケットボール
5	水泳(スイミング) / ドッジボール/なわとび	20.7	5	卓球	16.9		5		バスケットボール	13.0	

スポーツクラブ・運動部への加入率(性別×学校期別)

■小学生～高校生では男女で20ポイント近くの差がみられる



幼少年期のスポーツ指導

▶ スポーツクラブ・スポーツ教室

→ 単一スポーツのみの実施

→ 高頻度・長時間の指導を受ける種目も



発育段階にあわせた適切な運動・スポーツ機会の提供





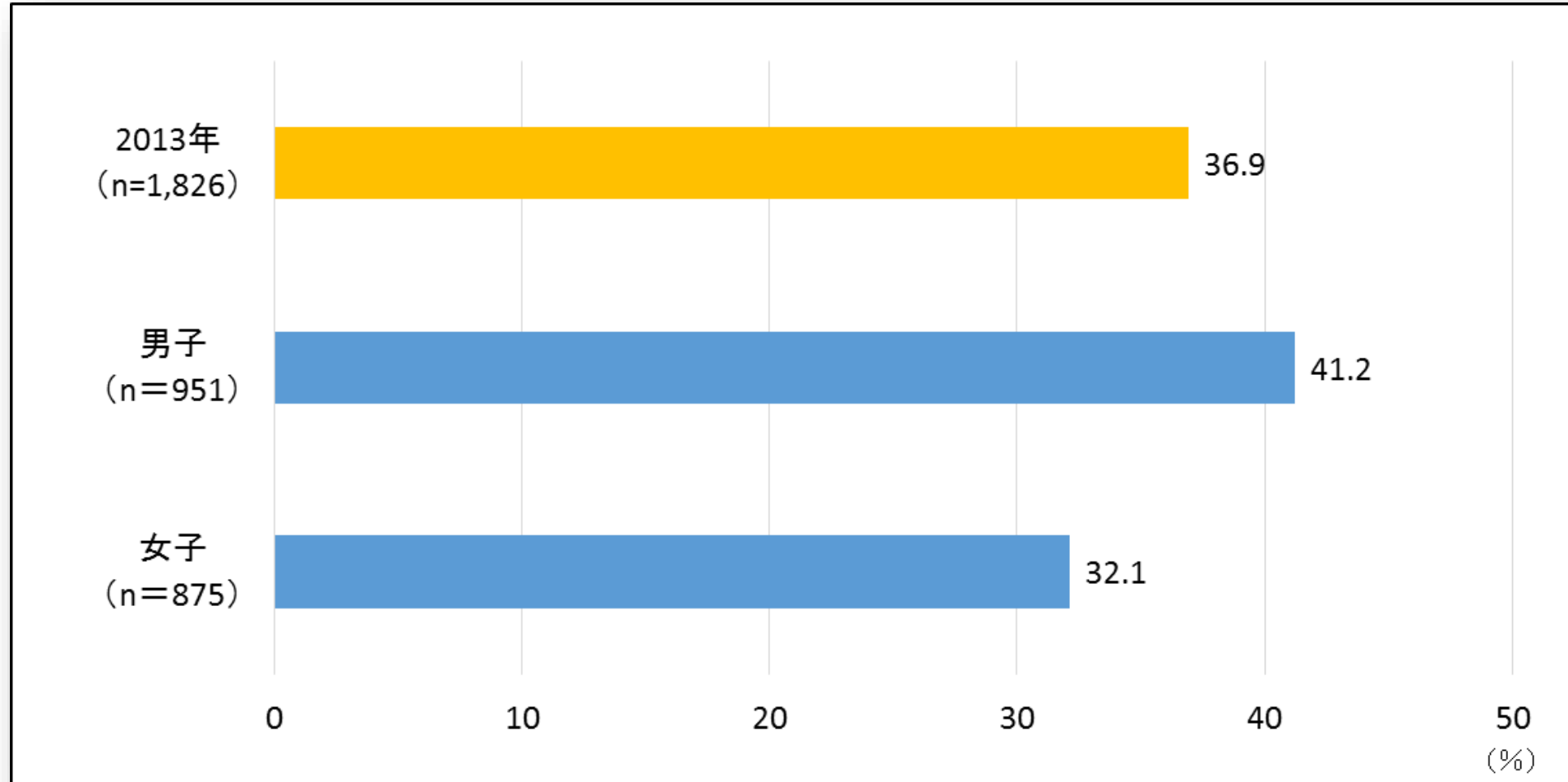
■ さまざまなスポーツとの関わり方 ■

スポーツ観戦
スポーツボランティア

—する・みる・ささえる—

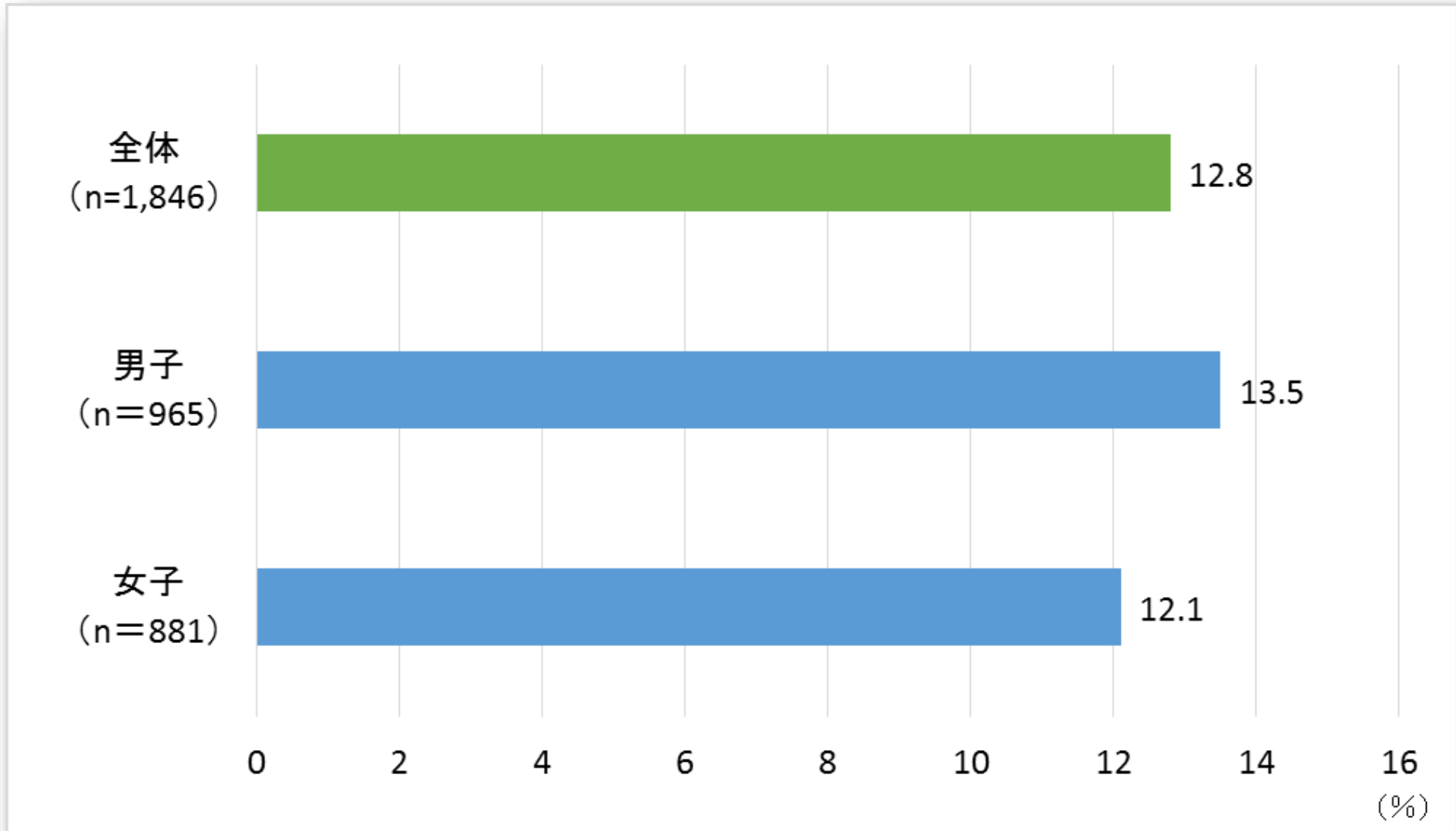
10代の直接スポーツ観戦率

—過去1年間に体育館やスタジアムなどへ足を運んで直接スポーツの観戦をした者—

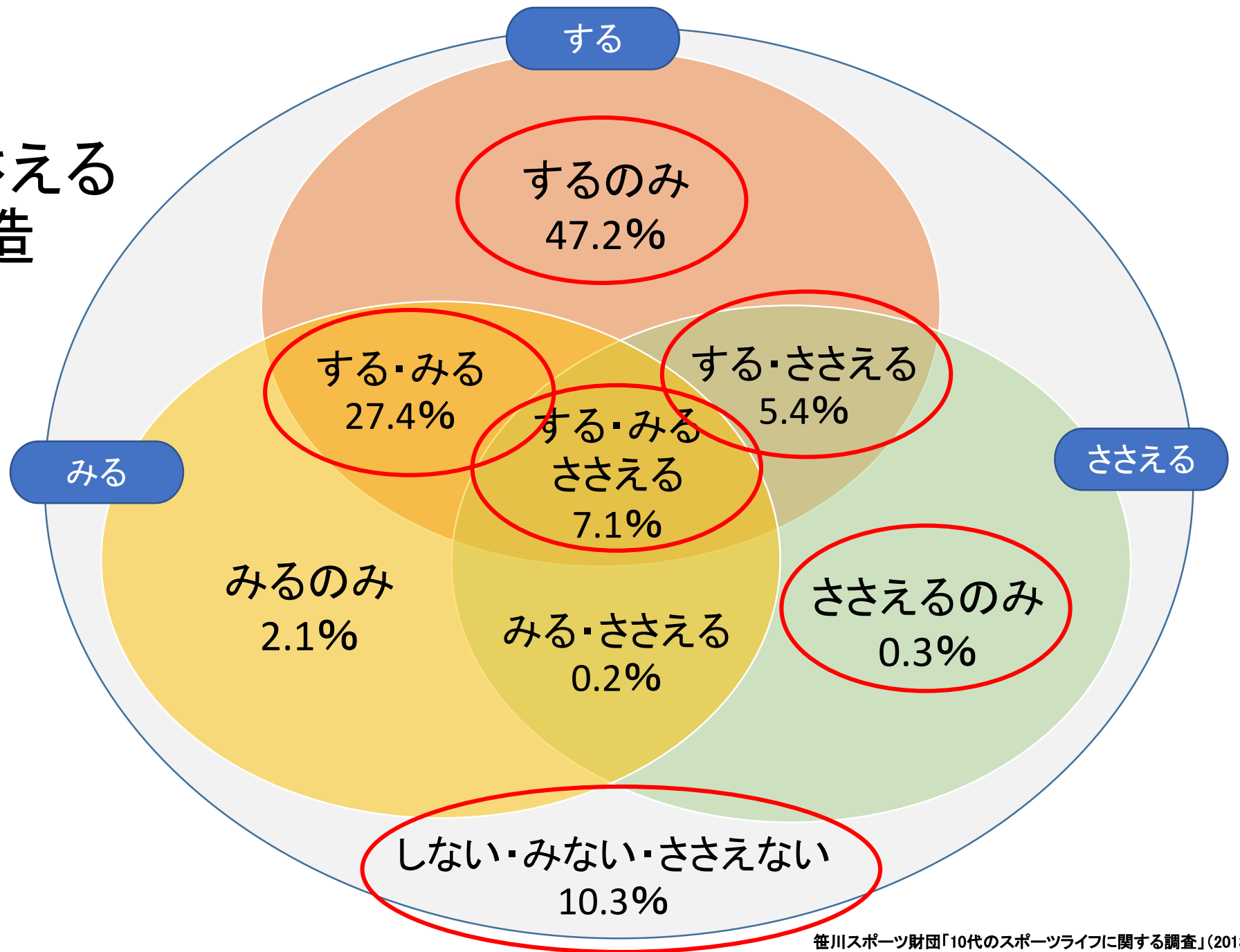


笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」(2013)より

10代のスポーツボランティア実施率

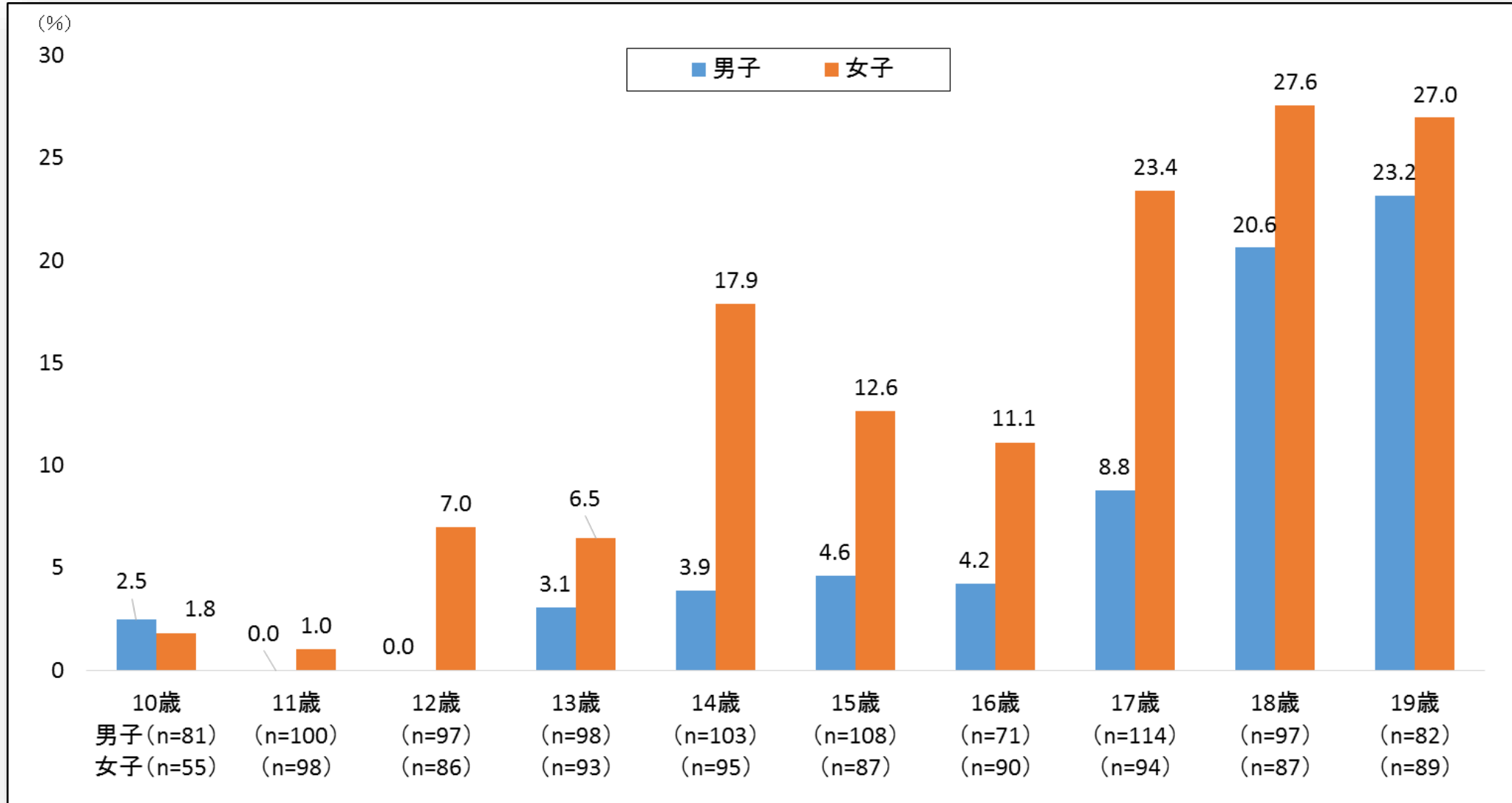


青少年の する・みる・ささえる スポーツの構造



年齢別・性別にみたスポーツ「しない・みない・ささえない」

— 過去1年間に運動・スポーツ実施、スポーツ観戦、スポーツボランティアのいずれの経験もない者 —



体力・運動能力向上のための取り組み

■文部科学省・スポーツ庁

(1) 子どもの体力向上実践事業(2004～2006)

(2) 体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究(2007～2009)

この事業の成果をもとに「幼児期運動指針」を制定

(3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(2008～)

・小学5年生、中学2年生を対象とした悉皆調査

・「子どもの体力向上のための取組ハンドブック」の作成(2008～2010)

(4) 幼児期の運動促進に関する普及啓発事業(2012・2013)

(5) 地域を活用した学校丸ごと子どもの体力向上推進事業(2013～2015)

(6) 子どもの体力向上課題対策プロジェクト(2016～)

・学校での運動促進、保護者への働きかけ、地域との連携などに向けた実践研究

・子どもの運動促進プログラムを開発



体力・運動能力向上のための取り組み

■スポーツ団体・学術団体

(1) 日本レクリエーション協会

- 1) 子どもの体力向上ホームページ
- 2) おやこ元気アップ！事業(2006～2012)

(2) 日本体育協会

- 1) 子どものスポーツ指導者(「ジュニアスポーツ指導員」など)の養成

子どもの発達段階に応じた体力向上プログラム(アクティブ・チャイルド・プログラム)の実技指導者講習会を全国で展開(2010～)

- 2) スポーツ選手活用体力向上事業(2003～)

幼稚園・保育園、小中学校、スポーツ少年団などにトップアスリートを派遣

(3) 日本トップリーグ連携機構

ボールを使った運動プログラム「ボールであそぼう」の開発・普及(2008～)

(4) 日本発育発達学会・幼少年体育指導士会

子どもの発育発達特性を理解して運動指導ができる人材「幼少年体育指導士」の養成(2009～)

体力・運動能力向上のための取り組み

■ 民間企業・被災地

(1) ミズノ

- 1) 運動が苦手な子どもでも楽しめる遊具の開発
- 2) 遊びを通して様々な基本的な動きを経験できる運動プログラムの開発と普及
 - ・ヘキサスロン、ミズノ流忍者学校

(2) ボーネルンド

室内でからだを動かす遊びができる施設「キドキド」の展開(2004～)

(3) 郡山市震災後子どものケアプロジェクト(2012～)

- 1) 室内運動遊び施設「PEP Kids Koriyama」の運営
- 2) 運動・発達支援
 - ・幼児、児童生徒の体力・運動能力、生活習慣についての縦断的調査研究の実施
 - ・保育士や教師を対象とした運動遊び研修会の実施など



子どもの運動・スポーツの課題

- ▶ 女子、体力・運動能力の低い子ども、障がいのある子どものスポーツ機会の充実
- ▶ 継続性のあるスポーツ環境
- ▶ スポーツとの様々な関わりができる環境の整備
⇒ する・みる・ささえる



生涯を通じた豊かなスポーツライフの形成